

分科会②

地域づくりの鍵を握る、 縦のつながり・横のつながり

- 小金井市 福祉保健部 介護福祉課 菊地原 美和さん
- 墨田区 社会福祉協議会（One SUMIDA Project）小古山 知世さん
- 福生市 福祉保健部 介護福祉課 佐野 秀実さん

司会：株式会社エンパブリック 広石 拓司

「地域包括ケアシステム」とは

病気になったら…

介護が必要になったら…

医療



- ・病院
- ・日常の医療

- ・高齢者の暮らしを支える
- ・地域を守り立てる



- ・地域包括支援センター
- ・ケアマネジャー

住まい



入院
通院

通所
入所

生活支援コーディネーター

- ・自宅
- ・サービス付き高齢者向け住宅など



地域の人たちの力

- ・老人クラブ・自治会
- ・ボランティア・NPO など

介護



- ・在宅系サービス
- ・介護予防サービス
- ・施設・居住系サービス

生活支援・介護予防

いつまでも元気に暮らすために…

生活支援コーディネーター（都の指針より）

- ◆地域における高齢者等の抱える**ニーズ・課題を把握**する
- ◆ニーズや課題解決に対応可能な**既存の社会資源**
（住民自身の持つ意欲・知識・技術等を含む）を
把握・整理し、ネットワークをつくり、
共に考える協議の場を行う
- ◆**住民とともに**課題等の解決に向けた検討を行い、
住民の自発的な取組を促し、場づくり・仲間づくり
・組織づくり・組織運営等を支援する
- 地域に近い（中学校区単位）の**第2層**
- 市区町村単位の**第1層**



支援テーマ

マーケティング実施計画策定

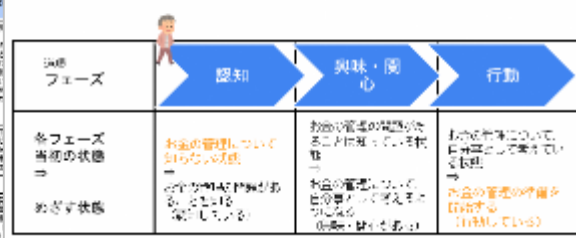
成果

住民同士・専門職での対応が困難な、高齢者の「お金の管理に関する困りごと」の啓発に向け、住民・プロボノチームと戦略案を検討。



お金の管理の困りごと カスタマージャーニーマップについて

「お金の管理について知らない状態」から「お金の管理の準備を開始する」までに小金井市民がとる動き（道順）を表形式のマップとして作成



●第1回検討会（令和4年9月6日 午前10時-12時）

地域で活動する地域住民、金融機関、社会福祉協議会、生活支援事業協議体委員など約30名が参加。

なぜ「お金の管理」という課題に取り組むことになったかの経緯を説明し共有。



●第2回検討会 (令和4年10月8日午後2時-4時)

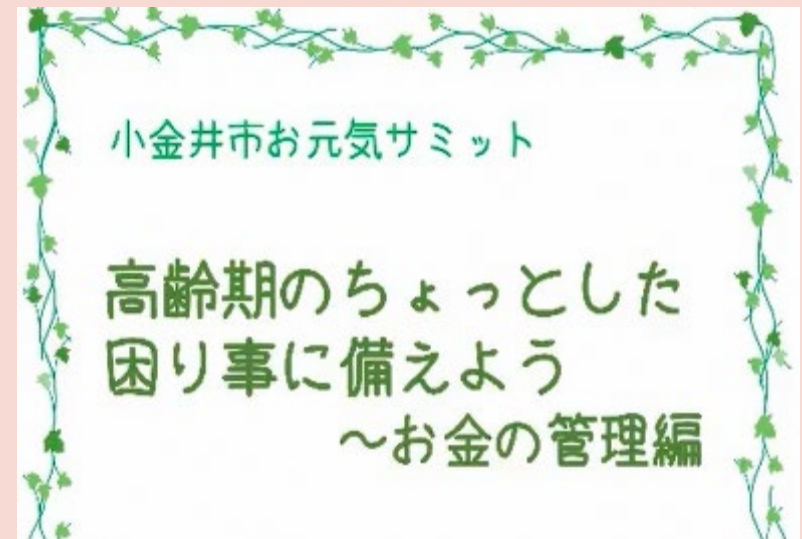
対話1 啓発パンフレットについての検討

対話2 プロボノワーカーによる情報収集・整理



●お元気サミット (令和4年11月9日午前10時-12時)

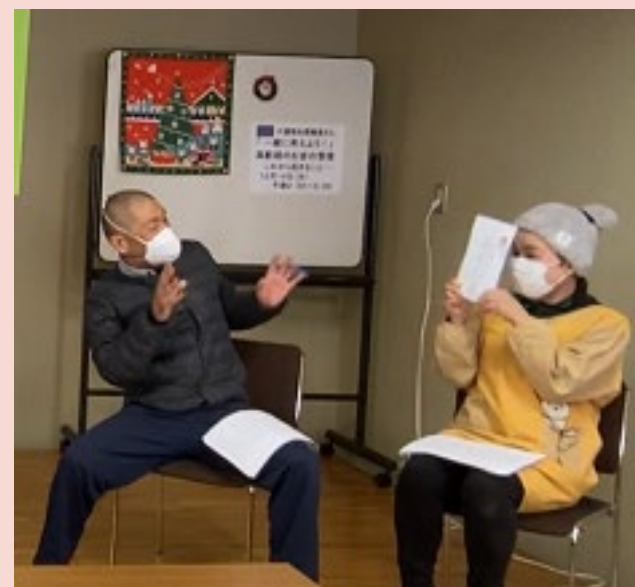
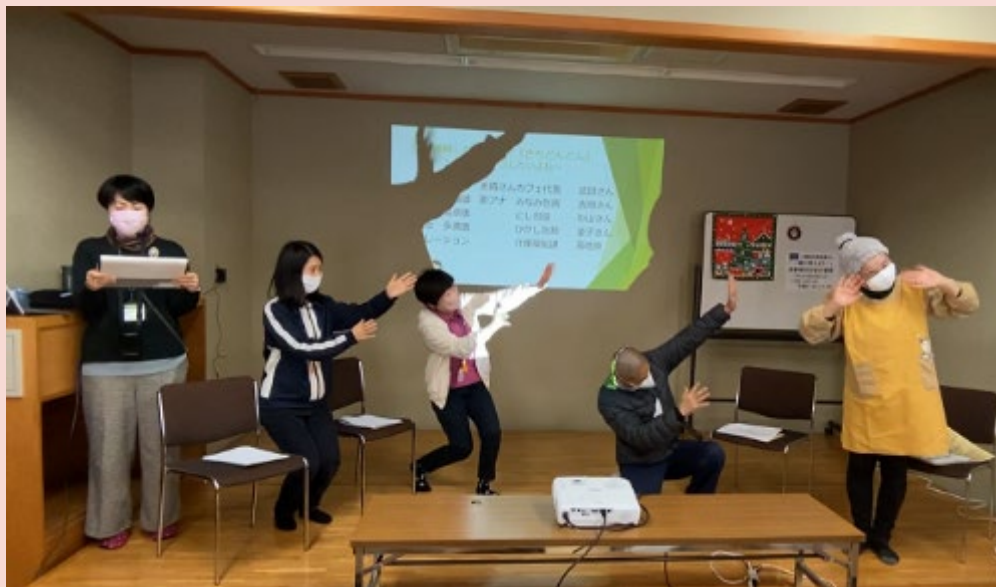
地域住民と生活支援コーディネーターによる対談動画を事前作成。来場者に視聴してもらった後、「お金の管理」についてグループワークを実施。



○啓発第1弾（令和4年12月14日 午後2時から）

地域サロンにて、「高齢期のお金の管理」についての朗読劇を実施。

生活支援コーディネーター、サロン代表も出演。



●第3回検討会（令和5年2月13日午後2時から4時）

地域住民、金融機関、社協など自分たちができる取組
について一緒に考えました。

本当のスタートはこれからです。



支援テーマ

活動活性化の仕組み・基盤の再構築

成果

住民主体の活動が次々に生まれていく場にするため、専門職と地域住民のよりよい関係性について学び合い、活動指針を再作成。

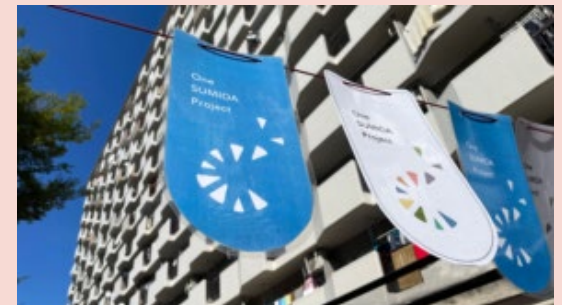


発足 令和3年度
実行委員 2層コーディネーター
児童館、NPO団体、社協



内容

それぞれ1割の力を持ち寄って、「すみだをもっとステキにする」まちづくりプロジェクト。地域の課題や自身の課題の共有の場。1つ、1人の課題を、同じ課題を感じるみんなの知識やつながりで解決していくことを目的としている。

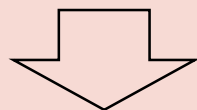


課題

何かを取り組むうえで、地域住民から「One SUMIDA Project実行委員」が「主催者」「取り組み主体」という役割を求められることも多く、実行委員も住民の想いを実現させるために主体的に動いてしまうこともあるために、プロジェクトの目的がぶれてしまう。

振り返り・検討結果

コロナ禍でつながりや地域活動が
止まったことへの危機感



ウィズコロナ・アフターコロナへ・・・
「日常が戻ってくる中でOne SUMIDA Projectの取
組みを再度見直す必要があるのでは？」

One SUMIDA Projectの新しいコンセプト
「あいさつし合えるまち 文花・立花」

活動報告とこれから

参加者

One SUMIDA Project の立ち上げ時に関わってくださった地域住民や団体。

内容

これまでの報告とともに、改めてOne SUMIDA Project の考え方を説明。

今後

誰もが参加可能で、地域のことを知りたいという想いのある方が一歩踏み出せる場を実施予定。

支援テーマ

生活支援コーディネーターとの協働体制構築

成果

令和4年度から新体制となった生活支援コーディネーターとの目標設定の共有、地域への一歩をスムーズにするチラシの作成など。



＼あったらいいなを一緒に作りましょう！

生活支援 コーディネーター

くさきさ 黒崎

日々の暮らしを続けていくためには、その地域にちょっとした助け合いや思いやりがあると安心です。
生活のお困りごとや地域の助け合いの活動の
ご紹介、既存のサービスや活動のご紹介を行う
のが私たちの役割です。

活動の仲間を
募集している


みんなが生きる場所
あつくりたいなあ

うちの居かえスペース
を活用してほしい

みなさんの声を聞かせてください
つながりのある地域づくりを応援します

〒編組はあまの町福祉交流センターまたは市役所まで

- 地域包括支援センター前川 042-510-2845
- 地域包括支援センター川巻 042-558-8720
- 地域包括支援センター武蔵野 042-553-6895
- 市役所9番窓口介護福祉課 042-551-1537



「生活支援コーディネーター」とは？ ・ ・
まずここからのスタート

「何から始めたらよいか」 ・ ・ ・

そして、とにかく色々な人とつながるために色々な活動に参加



人との繋がりが宝！

ここ最近の取り組み①

団地に集いの場の立ち上げを応援するため、
集会所を活用して体操教室を開催



自治会長さんの言葉に感動

「団地に住んでいる方に、ここでよかったよ、
と思ってもらえる団地にしたいんだ」

ここ最近の取り組み②

**FVAC（ふっさボランティア・市民活動センター）
との連絡会**



FVACの事業について初めて知る機会となった。

**「いつまでも自分らしく暮らせる地域づくり」は
共通した目的であり、そのために欠かせない
パートナーであることをお互いに確認できた。**